
150円のクリスマス

不肖。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

150円のクリスマス

【Nコード】

N1653D

【作者名】

不肖。

【あらすじ】

華麗なクリスマスの、どうでも良い、少し薄汚れてしまった裏側。

日本では真白な雪が降りました。

何の汚れも知らないそれは夜まで降り続いて、気付けば街をすっかりと白色に染めています。

時計台の下で彼女を待つ太郎君は、その凍える身体の芯から出る白い息を景色と合せたりして楽しんでいました。彼女が十分も遅刻している事なんて、すっかり忘れていた様子です。

太郎君と彼女にとって今日は二人で過ごす初めてのクリスマスでした。太郎君は今宵こそはと張り切って、これからの予定を頭の中で延々と繰り返しながら、上機嫌で彼女を待っています。

街と夜の星空は何時しか同化して、街のイルミネーションはまるで天高くまで昇る滝の様です。

太郎君はその光のひとつが街頭テレビだという事に気が付きました。

『○○国での戦争は未だに収拾出来ていません』

イルミネーションの中にポツンと、廃墟の映像が映し出されました。

『この戦争による 国の犠牲者は既に五千人を超えていて…』

ふと、廃墟の映像が一転して 国に住む子供達の顔が現れました。

『家は空襲で焼かれて、食物がないの』

子供達の顔は見るからにやせ細り、来ている服は煤で汚れて、腕に

至っては今にもぼきりと折れてしまいそうな程の細さです。

「下品だ」

何時もは頬を涙で濡らす太郎君ですが、今日に限って彼らの姿を見た時にそう思ってしまった。勿論、太郎君も可哀想だな、とは十分に思っています。

ただ、何故かそれが作り話の事のように思えてならなかったのです。もしくは、自分には全く関係の無い世界だ。そう思ったのです。

「お待たせ」

太郎君の背中越しに、彼女の暖かい手が太郎君を包んで来ました。太郎君はテレビから目を逸らすかの様に彼女の方へと振り返りました。悲しい事に、太郎君の視線が再びテレビに向く事はありませんでした。

その後、太郎君達がしばらく歩いていると駅前で募金集めをする人達がいきました。

『 国の子供達を救おう 』

それを見た彼女は募金をしよう、と太郎君に歩み寄りました。

太郎君は財布から適当に小銭を二枚取り出して、箱の中にぽいと投げ入れました。

「ありがとうございました！」

太郎君達は満足して、夜のイルミネーションの中へと消えて行きました。

(後書き)

現実には、世界には安い命が数多くあります。

二枚の小銭で救える命も当然あります。

ですが、それで満足気な気分になるのは大間違いです。

世界はまだ、ひとつには成れません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1653d/>

150円のクリスマス

2011年1月19日02時22分発行